

優秀映画鑑賞推進事業

見るものを惹きつけて止まらない異端のヒーローたち。シリーズ化やリメイクにより、時代を超越するアイコンとなった主人公を描く作品群を紹介いたします。

日本の名作映画鑑賞会

9月24日(月・祝) 10:00開場 10:30上映開始 亀山市文化会館大ホール

入場料(自由席) 通し券 1,000円 (2本以上3本まで好きな映画をご覧になれます)
一回券 500円 (どの映画でも、いずれか1本ご覧になれます)

① 次郎長三国志

[1963年 東映(京都)] (10:30~12:12) カラー
[出演] 鶴田浩二 松方弘樹 佐久間良子 山城新伍 他



② 網走番外地

[1965年 東映(東京)] (13:00~14:31) 白黒
[出演] 高倉健 南原宏治 丹波哲郎 田中邦衛 他



③ 不知火掎校

[1960年 大映(京都)] (14:50~16:21) 白黒
[出演] 勝新太郎 中村玉緒 鶴見丈二 他



8月5日(日) 前売開始

チケット前売所

亀山市文化会館、亀山エコ案内所、
亀山音楽協会(アイシ研究所)、
青少年研修センター、フジヤ、
亀山市観光協会、鈴鹿ハンター、
みどり楽器、JA津安芸芸濃支店、
(公財)鈴鹿市文化振興事業団

主催：(公財)亀山市地域社会振興会(亀山市文化会館) / 文化庁 / 国立映画アーカイブ
特別協賛：木下グループ 協賛：協力：株式会社オーエムシー

解 説

『次郎長三国志』

[1963年 東映(京都)] (カラー 102分)

原作 村上元三 脚本 山内鉄也 脚本・監督 マキノ雅弘

[出演者] 鶴田浩二 松方弘樹 佐久間良子 山城新伍 大木実 田中春男 津川雅彦
藤純子 長門裕之 丘さとみ

講談や浪曲など大衆芸能の世界で広く知られている幕末の博徒、遠州清水港の次郎長とその子分たちの活躍を描いた痛快時代劇。監督のマキノ雅弘は1952年から54年にかけて『次郎長三国志』(東宝)9部作を作っており、次郎長ものの決定版との評価が高い。東映のこの作品はそのリメイク版にあたり、4部作として製作されている。1920年代半ばに監督デビューしたベテラン、マキノ監督にとっては手慣れた素材であり、流れるような巧みな演出で男意気の世界を作り出している。東映が時代劇から任侠映画へと比重を移しつつあった時期でもあり、次郎長(鶴田浩二)、大政(大木実)、法印大五郎(田中春男)、関東綱五郎(松方弘樹)、桶屋の鬼吉(山城新伍)、増川仙右衛門(津川雅彦)、森の石松(長門裕之)という布陣は、そのまま大正時代劇ともいえる任侠映画の中核をなしていく。

『網走番外地』

[1965年 東映(東京)] (白黒 91分)

原作 伊藤一 脚色・監督 石井輝男

[出演者] 高倉健 南原宏治 丹波哲郎 嵐寛寿郎 安部徹 待田京介 田中邦衛
沢彰謙 風見章子 石川エリ子

日本における映画観客数は1958年をピークに下降線をたどってゆき、時代劇映画の人気も徐々に陰りが見えはじめた。1963年、時代劇王国を築いていた東映は、時代劇からやくざ映画への転換を試み、やくざの意地や義侠心を描いたヒット作を次々と生み出して全国の若者たちを熱狂させた。なかでも高倉健は、「日本侠客伝」シリーズや「昭和残侠伝」シリーズをはじめ、数々のヒット・シリーズに主演して時代の寵児となる。本作は1965年から1972年の間に計18作が製作された「網走番外地」シリーズの第1作。極寒の網走刑務所に収監中の橘(高倉)は、妹や病身の母に再会することを夢見ながらまじめに服役しているが、悪辣な囚人仲間こそそのかされて脱獄計画に巻き込まれてしまう。橘の更生を手助けする保護司役の丹波哲郎、「アラカン」の愛称で人気を博した時代劇の大御所・嵐寛寿郎、そして個性的な演技で脇を支える田中邦衛など、魅力的な俳優たちの競演も見所。

『不知火検校』

[1960年 大映(京都)] (白黒 91分)

原作 宇野信夫 脚本 犬塚稔 監督 森一生

[出演者] 勝新太郎 中村玉緒 近藤美恵子 丹羽又三郎 鶴見丈二 倉田マユミ 安部徹
須賀不二男 伊沢一郎 荒木忍

盲目の按摩・杉の市が、悪行の限りを尽くして地位と富を手にした末に、縛に就くまでを過激に描いた時代劇。主演の勝新太郎は、1954年に端正な顔立ちの二枚目役者としてデビューしたが、大きなヒット作に恵まれずに不遇をかこっていた。しかし本作において、勝は容赦のない悪漢を見事に演じきってみずからのスターイメージの転換に成功し、日本映画に新しい「異端のヒーロー」像を生み出した。本作における勝のヒーロー像は、2年後からはじまる「座頭市」シリーズに引き継がれて勝の生涯の当たり役となったほか、田宮二郎とのコンビで人気を博した「悪名」シリーズや、「兵隊やくざ」シリーズへと発展してゆく。本作で共演した中村玉緒は1962年に勝と結婚した。